



扱理論を学び生活に生かしている。⑥喜びに満ちた学校環境ができています。

### 感動のクオリティ・スクール視察

アメリカには宣言校が二〇校あると聞いて、三年前に四〇名近いグループで視察に行きました。四校訪問しましたが、どの学校もクオリティ・スクールの基準にあるようなすばらしい学校でした。

ブレイクアカデミー(小中学校)で、私たちを歓待してくださいましたのが校長のグエン・ケッセル教育学博士でした。彼女は公設民営方式で、選択理論をベースに学校を再生させた人です。異学年が一緒になったクラスで、自分の課題を確実にクリアして自信をつけながら学習するシステムに驚きました。保護者宅に泊めていただきましたが、三人の子どもたちは、毎朝自分で起きて楽しそうに学校へ行く準備をするそうです。

学校では、グエン校長のアドバイザー役のジャネット先生(選択理論のインストラクター)が案内をしてくださいました。最初のクラスで、彼女が若い男性教師を「今年、フロリダ州の最優秀教員として表彰された先生です」

### 特集 2

と紹介した瞬間、彼は生徒たちのほうに両手を広げて「彼らのおかげです」と笑顔で応えました。

また、話し方の教室を担当しているA先生は、四〇歳代くらいの女性でした。ジャネット先生が、生徒たちに「ねえ、みんな、A先生のことをどう思ってる？」と尋ねました。生徒は口々に「気遣ってくれる」「困ったときは一緒に考えてくれる」「いつでも笑顔で優しい」と答えていました。後でジャネット先生が、「グエン校長は、A先生となら、学校の再生ができる」と確信し、二人の絆を土台に選択理論に賛同する教師を集めて今日がある」と話してくださいました。私は心の中で叫びました。「ああ、これだ。結局は人なのだ。お互いを尊敬し合う教師集団は、生徒に対して最大の貢献ができ、土質を求める教育が可能になるはずだ」と。

まずは、自らが保健室で  
そして、保健室での発見を全校へ

視察で「信頼関係が学校を変える」と確信した私は、当時の重要な教育課題と言われていた不登校や保健室登校の生徒、そして、自分の気持ちを表現しにくい生徒の支援に選択理論を活用することにしました。

まず、私自身がすべての生徒にグラッサー博士がすすめる人間関係を近づける習慣（笑顔・傾聴する・支援する・励ます・尊敬する・信頼する・意見の違いは話し合っ  
て交渉する）を使う決心をしました。反対に、人間関係を遠ざける習慣（批判する・責める・文句を言う・ガミガミ言う・脅す・罰する・褒美でつる）を使わないよう努めました。そのことで、保健室を訪れた生徒の心に「愛されている」「この学校の一員である」という気持ち  
が育まれてきたように思います。

また、「本当はどうなりたいのか」を尋ねることも関係を近づける具体的な言葉です。「どうなりたいか」を考え始めると生徒の表情は明るくなります。目標ができたときの回復はめざましく、人目を気にして動けなかった生徒が嘘のように変わり始めました。

保健室で取り組んでみて、教師と生徒の人間関係の重要性を痛感した私は、「親や教師との関係が良好な生徒は、健康で、自分に自信を持ち、主体的に行動する」と仮説を立てて、アンケートを実施しました。予想どおり、身近で重要な大人との関係は、子どもの健康面や行動面、学習面に大きな影響を及ぼすという結果が出ました。そのデータを職員会議で報告するとともに、県下の先生方

にも情報提供しました（第二一回愛媛県学校保健会保健  
主事研修会研究集録）。

主な内容としては、親や教師と関係が悪いと感じている生徒は、保健室への来室が多く（関係がよいと答えた生徒の三・五倍）、欠席も多い（二・五倍）。自分には長所がないと答え（一・六倍）、さらに自分のことが好きでない生徒が多い（二・〇倍）ことがわかりました。また、学習面でも配慮を要する生徒が多く（二・二倍）、親や教師と関係が悪いと感じている生徒のうち、三〇%はなんらかの問題行動を起こしていました。

しかし、親や教師と関係がよいと答えた生徒には、一人も問題行動がみられません。長年、保護司を務めた方の「いまだかつて、幸せないじめっ子を見たことがない」という言葉が胸に迫ります。「子どもは大人から認められることを切望している」と改めて心に刻んだ調査結果でした。私は心の中で、「良好な人間関係づくりのお手伝いをする」ことを生徒に誓いました。

● 子どもの幸せに貢献できる ●

● 「教師」という仕事 ●

そんな折、三瓶中は、文部科学省の委嘱を受け「児童

生徒の心に響く道徳教育推進事業」に取り組むことになりました。「親や教師との関係が悪い生徒は、健康面でも問題が多く、自己を否定しがちで、学習面、行動面でも問題を抱えがちであること」「道徳教育が子ども心に響くためには、何よりも教師と生徒との関係づくりが大切であること」を保健室データから情報提供しました。職員会議で合意を得て、学級担任を中心に全教職員で取り組み始めました。一人ひとりのかけがえのなさに気づく地域教材の開発、生命の尊さを考える道徳の授業、学級活動、学校行事、どれも「良好な人間関係づくり」を意識して行っています。生徒集会では「心の健康の保ち方」について選択理論を活用して学習しました。

このような実践を一つ一つ積み重ねて、一九年度の調査では、「教師から大切にされている」と答えた生徒の割合が、昨年度の六七%から二四%増え、九一%となりました。この結果を知ったときは、研修主任とともに大喜びしました。保健室登校や不登校の生徒も激減しました。管理職の卓越したリーダーシップと教師一人ひとりの真摯な実践と、それを素直に受けとめることのできる生徒の素直さに感動しています。

推進指定校発表会では、県教育委員会の指導講評にお

## 特集 2

いて「生徒を人として認める支持的風土ができており、推進校として見事である」と賛辞を受けました。参加者から「遠くの客には親切にするが、身内には親切を忘れるのが人の世の常。三瓶中では身近な人を大切にしている」という感想発表がありました。それこそが、クオリティ・スクールの核心であり、健康と幸福の源だと実感しています。

### 「家庭」「地域」の中の学校

保護者や地域へも選択理論の情報を提供することで、学校への理解もより一層深まると考え、有志で選択理論心理学会西予支部(<http://www.mikane-c.net/>)を立ち上げ、五千名に情報提供してきました。この一〇月には、グラッサー博士、カーリン夫人、柿谷正期教授(立正大学)、柿谷寿美江先生が、三瓶中学校と三瓶文化会館で講演や通訳をしてくださったことは感慨無量です。

#### △参考図書▽

- ・グラッサー『選択理論』『警告』『十五人が選んだ幸せの道』すべてアチーブメント出版
- ・柿谷寿美江『幸せを育む素敵な人間関係』選択理論心理学会西予支部